

芝地区公式SNSフォローしてね!

芝地区地域情報誌

VOL. 71

2025年7月発行

発行部数 31,500部

発行

港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1-5-25(港区役所2階)

TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180

ボランティアの
編集委員が
つくっています



バックナンバーをWebにて公開中

芝情報誌

検索

SHIBA-TAG

しばタグ



芝の食生活を支える八百屋

「八百新」

東京タワーのビュースポットとして人気のある三田通り。慶應義塾大学の東門やビルが立ち並ぶこの通りから、東方向の日比谷通りへ向かう細い道を入ります。この通りはかつて「いろは通り」と呼ばれ、個人商店が軒を並べるにぎわいのある芝三丁目の商店街でした。現在は店の数は減りましたが、昔ながらの建物がいくつも残っています。まるで映画『ALWAYS 三丁目の夕日』のような昭和の雰囲気が漂っています。

緑と白のストライプオーニングが目印の八百屋「八百新」は、まちの人々の食生活を支えてい

ます。お店では、新鮮野菜と果実以外にも、毎朝豊洲で仕入れている鮮魚も売られています。ほかにも卵、練り物や漬物、調味料などもそろっています。木曜日には牛肉や豚肉も販売。縁起のよい仏花もあります。近隣の住民はもちろん、飲食店のオーナーが自ら買い物に立ち寄り、まちの人々のニーズが詰まったお店です。創業77年を迎えた「八百新」代表の雑喉谷勝蔵さんにお話を伺いました。

八百屋の1日は朝3時から始まる

毎朝3時に豊洲市場に出向く勝蔵さん。5時頃には仕入れた食材の荷下ろしをします。それを待ち受



「商売繁盛」の大黒様と恵比寿様が見守る店内

けて手伝うのは次女の保屋野公子さん。荷下ろしが終わると配達です。休む間もなく、7時半になると勝蔵さんは魚を仕入れに再び豊洲市場に向かいます。8時になると公子さんが店を開きはじめます。勝蔵さんは豊洲市場から戻ってからも、午前中のうちに次の日の注文を市場にFAXを送ったり、残りの

しばタグ

目次

VOL.71

- | | | | |
|------------------------------|----|----------------------------------|----|
| ● [芝の老舗] 八百新 | P1 | ● 港区と愛宕警察署からのお願い | P6 |
| ● [Illuminato People] 大野えりさん | P3 | ● [ばるーん] 「さくらだ学校企画運営委員講座」の参加者の募集 | P7 |
| ● [とらここ] とらサロン | P4 | ● [芝の家・ちゃぶ台日誌] 夏編 | P7 |
| ● [しばあるき] 海風に誘われて竹芝へ | P5 | ● [しばテク 芝地区テクテク] ⑥夏のひんやり坂めぐり | P8 |
| ● 編集委員おしごとルポ | P5 | ● 法務局地図作成事業のお知らせ | P8 |





「八百新」代表 雑喉谷勝蔵さん

配達を済ませたりしなければなりません。勝蔵さんの奥さまの千津子さんと娘の公子さんは、次々に買い物に来るお客さまに対応します。

三田綱町からのお客さまでしょうか。必要な食材を指さし、お札1枚を置いて「いつでもいいので配達よろしくね」と帰っていきます。おしゃべりに花を咲かせるお客さまに千津子さんが相槌を打ちます。勝蔵さんのお孫さんが通う赤羽小学校の子どもたちは、野球のバットやミットを持って、お店の周りで元気に遊んでいます。すっかり日が暮れた19時すぎには、片づけをはじめ、「八百新」の1日は終わります。穏やかなまちの一角で日々変わることなく、「八百新」はお客さまを迎え続けてきました。

裸一貫ではじまった「新蔵の八百屋」

店の名前は、勝蔵さんの父である「新蔵」の「新」に由来します。雑喉谷新蔵は大阪から裸一貫で上京。戦前は浜松町の八百屋で奉公をしていました。戦後は自ら大八車を引いて野菜などの販売を始めます。戦後も配給制度が続く。政府が特定の店舗に品物を配給し、国民は配給券などを提示して必要な物資を購入するという仕組みでした。そこで、昭和23年(1948)、いろは通りに八百屋「八百新」を創業。戦後の売り手市場の時代を経て、店舗販売、三田綱町屋敷の御用聞き、日々の配達と、実直に商いを続けていきました。

勝蔵さんは昭和18年(1943)生まれ。「子どもの頃は、よく父親の大八車について歩いていた」と思い出を語ります。高校卒業後、長男として「八百新」を継いだ勝蔵さん。「昭和33年(1958)に、今の店に建て替えた。東京タワーが完成した年だからよく覚えている」と、建て替え前の店が写った白黒写真を見せてくれました。1枚は父親の新蔵が写っている写真です。もう1枚は幼い頃の勝蔵さんが従兄弟と一緒に写っている写真です。写っている店横の



創業当時の店舗の前に立つ雑喉谷新蔵(左)

柱からは「いろは通り」の文字が読み取れます。

「いろは通り」の由来は、明治中頃に横丁の入口右角に「いろは」という立派な骨組みの大きな料理屋(牛鍋屋)があったことだそうです。そしていつの頃からか「いろは横丁」と呼ばれるようになりました。昭和30年(1955)頃には「いろは通り」となり、商店街として賑わっていました。今でも毎年秋に「いろはまつり」が開催され、「八百新」が提供する焼き芋は大人気となっています。



秋から春にかけて提供している焼き芋は大人気

ちなみに、この町会名は「北四国町会」といい、江戸時代初期から三田通り一帯に四国四藩(阿波の徳島藩、土佐藩、讃岐藩、伊予藩)の屋敷が隣接していたことに由来します。北四国町会の「年納めもちつき大会」でもほかほかの焼き芋を提供し、まちの人々をあたためています。

いいものを安く便利に

勝蔵さんと千津子さんとの間には3人の娘さんがいます。それぞれ嫁ぎましたが、千津子さんと公子さんが店を切り盛りしています。お二人はとても聞き上手。「毎日いろいろなお客さまが情報を提供してくれるので、身のまわりに役立つ情報が多くて助かります」と笑顔で話してくれました。「港区から出たことがないのよ。みんな優しいし、毎日忙しくてあつという間の日々」と話す千津子さん。「芝は交通の便が良く、生活するのに便利なんです」と公子さん。



鮮魚や豆腐などお客さまのニーズに応える食材がそろっています



現在のいろは通り

長くお店が続く秘訣を伺うと、「買い物に来られるお客さまと仲良くなって、いろいろな話をする。いいものを安く便利に提供すること」と勝蔵さん。例えば、取材の時、勝蔵さんは春が旬のタケノコの下処理をしていました。皮付きのまま売らでなく、お客さまの利便性を考え、一つひとつ皮をむきゆでたものも店で販売しています。ゆでたての新鮮なタケノコはすぐに売り切れます。学校から帰ってきたお孫さんは友だちと自転車です遊んでいますが、その元気な声をBGMに勝蔵さんは黙々と皮をむく作業を続けます。



タケノコの皮を一つひとつ丁寧にむく勝蔵さん

芝三丁目の一角に、時の流れに寄り添うように佇む「八百新」。家族の手から手へと受け継がれてきた、あたたかな営み。そこには、昭和の面影と、今を生きるやさしさが、静かに息づいています。勝蔵さんの確かな目利きと、細やかな心配りが、日々の食卓を豊かに彩り、港区の暮らしを支える存在として、今日も地域に寄り添い続けています。



毎日市場から仕入れた野菜や果物が店頭に並んでいます

取材:森 明/早川 由紀 文:早川 由紀

INFORMATION

八百新 芝3-28-3 TEL 03-3451-7378

イルミナト ヒーブル
光に満ちあふれた方から私たちへのメッセージ

Illuminate People

ジャズってね、たとえ間違えても
それを足がかりにして
新しい世界を創り上げる
とても自由な音楽なのね。

ジャズシンガー 大野 えりさん

——今日はよろしくお願いします。まず自己紹介をお願いします。

大野: 初めまして。大野えりです。ジャズ歌手をやっております。24歳で日本コロムビアからデビューしました。以来45年間、歌い続けています。今日はよろしくお願いします。

——大野さんがデビューした1970年代は女性ジャズボーカルの黄金期だったそうですね。なかでも、すごい実力派シンガーがいるとデビュー前から話題になっていたと聞きました。上京当時、港区に住んでいたとのことですが、芝地区に思い出はありますか。

大野: 芝地区だと…そうですね、昔ラジオのレギュラーをしていたときに、1〜2週間に1回ぐらいのペースで、制作会社のある三田に収録に通っていましたね。また、今も港区役所の目の前にある、プリンスホテルのプール会員だったの。東京タワーを眺めながらプールで日焼けを楽しんで(笑)。いい時代でしたね。

——芝地区はなんと子どもが増えている地域でもあります。メッセージをいただけますか。

大野: そうねえ、自分を周りとは比べないってことでしょうか。比べるなら自分の昨日と今日、そして明日のみ。そして失敗を恐れないでほしいで

すね。ジャズは、音で対話をしながら進んでいくんだけど、人は誰でも間違えることがあるってことを肯定して、相手を全部受け止めて、たとえ間違えたとしても、それを足がかりにして、新しい世界を創り上げるというとても自由な音楽なのね。

——大野さんが芝地区に期待することって何ですか。

大野: 今の若いミュージシャンは、優秀な人が多いんですが、ジャズを聞く若い人は少ないんです。だから、若者のジャズを知ってもらうためのイベントを芝地区のお寺などで開催するのはいかがでしょうか？

——では最後に。今回の「しばタグ」は、7月に発行されるのですが、夏におすすめのジャズナンバーを教えてください!

大野: まず、ジョアン・ジルベルトも歌っている『エスターテ』(イタリア語で夏)という曲と、ジャズピアニストの板橋文夫さんが作った『渡良瀬』という曲をおすすめします。特に『渡良瀬』は、シンプルな歌詞なんですけど、歌っていくうちに深さが理解できてきて。あともう1曲は、同じく板橋さんの『グッバイ』という曲でしょうか。



インタビュー中も、あくまでも明るく前向きな姿勢を崩さない。どんなお話に引き込まれていきます

ジャズのスタンダードナンバーって、昭和20年(1945)前後にできた曲が多いんです。歌詞は、また会いましょうとか、元気で帰ってきてほしいといった内容が多い。それは要するに、戦場に向かう男たちを見送る歌だからなんですね。この曲は私が歌詞を付けたんですが、ちょうどその時に外国で戦争があったので、同じ気持ちで『グッバイ』の歌詞を書きました。21世紀を平和にしたいという思いを込めてね。

——ありがとうございました! これからもがんばってください。

大野: ありがとうございました。

聞き手・文:逸見 チエコ



取材後に行われたライブの様子。時にはしっかりと、時にはバフバフに、聞く者を魅了します

大野えり

昭和30年(1955)1月23日生まれ 愛知県名古屋出身

Profile

同志社大学英文学科卒業。大学で軽音楽部に入り、在学中からライブ活動を開始する。大学3年の時、山野BIG BAND コンテストで審査員特別賞を受賞。卒業後、何のつてもなく上京し、都内のあらゆるジャズクラブを飛び込みでまわる。そして1年も経たない昭和54年(1979)に、日本コロムビアよりアルバム『Touch My Mind』でデビュー。以後、ハンク・ジョーンズ率いる The Great Jazz Trio との共演盤を含め、8枚(日本コロムビアでは7枚)のアルバムをリリース。そのほか、DJ KRUSHのアルバムへの参加、『ルパン三世』のエンディングテーマ、TVCM曲『真っ赤な太陽』など多岐にわたり活動。現在は、インディーズレーベル[K・I・A Record]を立ち上げ、7枚のアルバムをリリース。精力的にライブ活動で全国各地を飛び回るほか、ボイストレーニングの講師なども務め、多忙な日々を送っている。



毎月第2金曜日午後2時から約1時間、区の施設「愛宕コミュニティはうす」で開催されている地域の集い「とらサロン」をご紹介します。

取材・文：伊藤 早苗



伊藤昌一さんの話に熱心に耳を傾けている参加者



月によってさまざまなプログラムを実施。5月は自律神経失調症を改善するための、首を中心としたセルフケアを実施

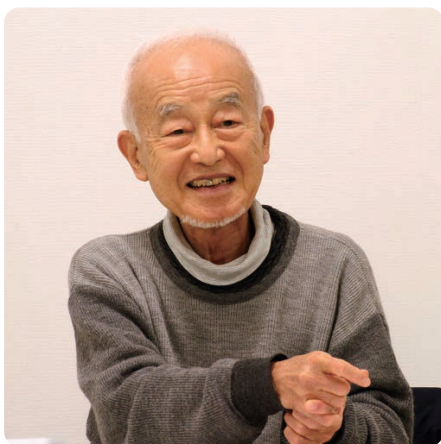
「とらサロン」～みんなで笑って元気よく～

4月のサロンの様子

4月11日（金）午後1時半過ぎから、たくさんの方が三々五々集まってきました。月1回開催の「とらサロン」に参加する地域の方々です。

受付を済ませて、各自好きな所に着席。「まあ！久しぶり！」「元気でしたか？」など、さまざまな声が聞こえてきます。予約は不要なのでご自分の都合で参加できます。

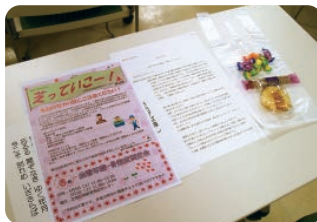
この日は「芝落語会」の伊藤昌一さんに、江戸よもやま話と「笑い」についてのテーマで小噺をしていただきました。「くすっ」と笑い声があちらこちらから聞こえてきた40分間でした。



芝落語会 伊藤昌一さん

各機関からの情報提供も

参加者は高齢者が多いこともあり「ふれあい相談員」や「高齢者相談センター」からの情報や、愛宕警察署からの詐欺防止情報などの提供もあります。



最後はいつもみんなで合唱してお開きです。足を

4月に配られた資料（お茶とお菓子付き！）



伊藤昌一さんとスタッフの皆さん

「とらサロン」の活動について

「とらサロン」の活動について、スタッフの出島さん、雨宮さん、進藤さんにお話を伺いました。

●「サロン活動」とはどのようなものですか？

港区社会福祉協議会に登録されている地域に密着した活動です。「誰もが気軽に集まれる場所」であり、「お互いに気かけ合い、社会的孤立の防止」に役立っています。再開発などにより人々のつながりが希薄になっていますが、「知り合いが増えた」「引越してきたが友人が増えた」など、地域の緩やかなつながりが大切だと考えています。

●毎回どんなことをしているのですか？

お茶を飲みながら、一つのテーマに沿った講演や体力づくり、「虎ノ門いきいきプラザ」の協力による栄養講座や体操などをプログラムに取り入れています。

●参加者はどのような方々ですか？

平日の午後ということもあり、高齢者の方がほとんどです。虎ノ門をはじめ、新橋や高輪、青山、赤坂、さらに港区外からの参加者もいます。毎回20人以上が参加しています。

●プログラムはどうやって決めていますか？

参加者に興味がありそうなテーマを選び、地元の企業や個人的な知り合いを頼ってお話をしています。

●スタッフはどのような方々ですか？

民生児童委員や地域活動に関心がある40代から80代と幅広い年齢層を中心に運営しています。

●開催日を教えてください。

毎月第2金曜日の午後2時～3時に、区民協働スペースの「愛宕コミュニティはうす」（虎ノ門3-19-15 ザ・パークハウス愛宕虎ノ門1階）で開催しています。

●参加したいときはどうしたらいいですか？

特に決まりはありません。ご都合のつくときに来ていただいています。

●料金は？

参加料200円をいただいています。お茶とお菓子付きです。

●参加するとどんなことがプラスになりますか？

友人が増える、昔の友だちに会える、体力がつく、知識が得られる、大きな声で歌える、笑顔が増える、おしゃべりができるなどたくさんあります。

●開催のお知らせはどこに掲示されていますか？

区の掲示板3カ所と虎ノ門いきいきプラザ内でお知らせしています。そのほか、地域のマンション内にある掲示板にも貼らせてもらっています。

8月～12月までの予定は、次のとおりです。皆さまのご参加をお待ちしております。

8月8日（金） 9月12日（金）
10月10日（金） 11月14日（金）
12月12日（金）

今後の予定



受付で連絡先を書きます



次回のご案内をする出島さん。毎回このようなチラシを掲示しています

INFORMATION

とらサロン 愛宕コミュニティはうす（区民協働スペース）

●問い合わせ先：港区社会福祉協議会 地域福祉係 TEL 03-6230-0281



海風に誘われて竹芝へ

青空が広がる休日。心地よい風を求めて歩いてみる。浜松町駅北口から続くポートデッキは、右手に旧芝離宮恩賜庭園を見下ろしながら、首都高を越え、東京ポートシティなど高層ビル群の間を抜けていると、まるで都市の中に架けられた空中回廊を歩いているようだ。

たどり着いた先は竹芝ふ頭。半円状の中央広場に足を踏み入ると、風を受けて立つ船のマストのモニュメントが訪れる人を迎えてくれ、視界いっぱいに広がる空と、そっと吹き抜ける海風が心をほぐす。階下には、海の玄関口・竹芝客船ターミナルがあり、伊豆・小笠原諸島へと旅人をいざなう。

海に面したウッドデッキ（竹芝デッキ）では、東京スカイツリーから隅田川河口、レインボーブリッジまでを望む大パノラマが広がり、都会の音は驚くほど遠く、時折モノレールの音と船の汽笛だけが優しく耳に届く。ベンチに座ると、時間の感覚がふっとゆるむのを感じる。

しばらくの間、気持ちのよい時間を楽しんだあとは、デッキを降り、ウォーターズ竹芝へ。アトレ竹芝の間には芝生が敷き詰められたプラザがあり、子どもたちの声が芝生に響く。テーブルやベンチがゆったりと並ぶ広場は、一息つくのにもちょうどよい空間。大階段から見渡せば、東京スカイツリーを背景に浜離宮恩賜庭園の緑、そして汐留の高層ビル群。広場に隣接して、浅草とお台場とを結ぶ水上バスの発着所もあり、ここでも東京を水から感じられる。港区はたしかに海とともにあるまちだと、静かに実感する。



悠然と立つ船のマスト



レインボーブリッジ

ウッドデッキから広がる大パノラマ



海風が気持ちいい時間を忘れてしまいそう...



旧芝離宮恩賜庭園は緑がいっぱい



東京スカイツリー

緑にあふれたプラザでコーヒーでも

取材・文：菊池 弓可

編集委員のおしごと

しばタグ71号



取材の醍醐味は、何といても、いろいろな人に話を聞けること。知らなかった地域の歴史や文化、施設など興味深い話題が豊富です



編集会議では、和やかな雰囲気の中、取材のときの報告をしたり、ほかの編集委員が書いた原稿を読んだりして、意見交換をします

「しばタグ」って、どうやって作っているの？ 編集委員って、いったい何をしているの？ そんな疑問にもたれている方もいらっしゃるかもしれません。文章を書くの得意じゃない自分にもできるのかな、写真もうまく撮れないんだけど……。芝地区のことをもっと知りたい、みんなにとびっきりのスポットを教えてください、そんな気持ちがあれば大丈夫です。ここでは、「しばタグ」71号を作っているところを、少しだけ紹介します。これを見て興味をもたれたら、編集会議に見学に来てください。皆さん、いっしょに「しばタグ」を作りましょう！！



編集委員のCさんに、これまでの取材で特に印象に残っていることを聞きました。

何年前に、普段行けないような老舗のお店の取材に行くことができたのが印象に残っています。ここはちょっと取材は難しいかなという場所を編集会議で提案しても、「しばタグ」の編集委員という肩書きがあると、実現しやすいのうれしいですね。



港区と愛宕警察署からのお願い

路上にテーブルや椅子を置いて 営業する飲食店にご注意ください

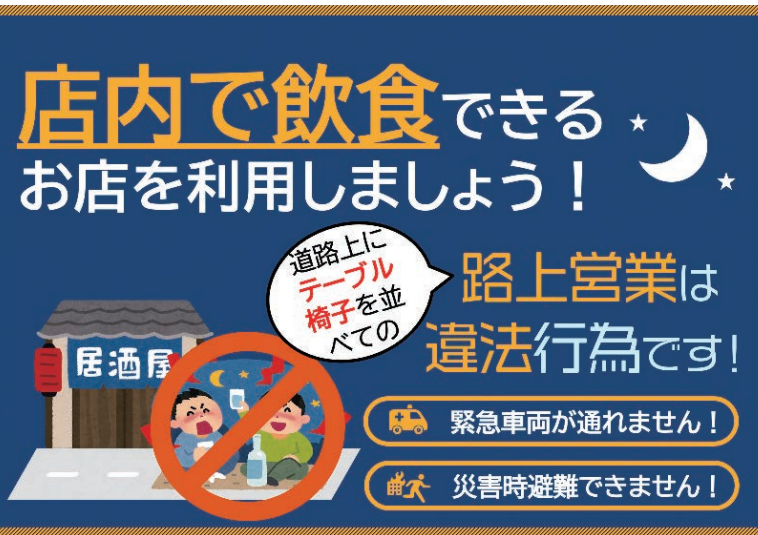
飲食店が許可なく、道路上にテーブルや椅子を並べて営業することは、道路法と道路交通法に違反します。このような路上営業は、歩行者や車両の通行を妨げるだけでなく、防災といった安全面でも問題があります。

新橋駅周辺の繁華街では、港区と警察が連携して、路上営業を巡回指導しています。

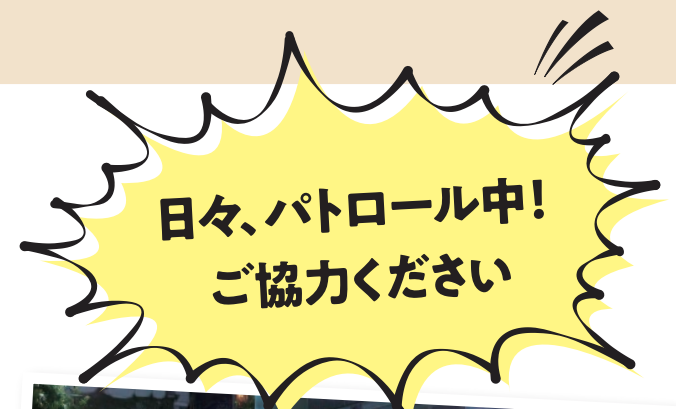
愛宕警察署は、令和6年(2024)11月に、港区と警察から繰り返し指導を受けていた居酒屋店舗に対して、改善が見られないために、道路交通法違反の疑いで書類送検しました。令和7年(2025)3月には、風俗営業法による営業停止処分が下されました。この行政処分(道路交通法に違反したことによる風俗営業法に基づく行政処分)は全国初のケースです。

皆さんの安全を守るためにも、以下の点にご協力ください

- 1 安全で快適なまちづくりのために、路上にテーブルや椅子を置いて営業する飲食店を**利用しない**よう心がけましょう。
- 2 飲食店が路上にテーブルや椅子を並べている場合は、110番や区役所に**通報**しましょう。
- 3 飲食店を運営されている方は、路上にテーブルや椅子などを**置かない**ようにしましょう。



港区 愛宕警察署 地元町会・自治会・商店会



●問い合わせ先：港区芝地区総合支所 まちづくり課 TEL 03-3578-3104



「さくらだ学校企画運営委員講座」の参加者の募集

「さくらだ学校企画運営委員講座」では、60歳以上の区内在住・在勤の皆さんを対象とし、毎年、健康や趣味、環境、歴史、生き方など、さまざまなテーマの講座が開催されています。そして、この講座の特徴が、この企画・運営を担っている委員も、同年代の仲間たちであるということです。

同年代の仲間が企画したこの講座を通じて、新しい知識を得たり、趣味を楽しんだりしながら、日々に新たな彩りを加えてみませんか? ご自宅から一歩踏み出し、同世代の仲間と共に学び、語り合う場として、ぜひご参加ください。

今年度のキーワードは「昭和100年」。皆さまが懐かしく感じたり、興味をもてたりしていただける内容を企画しています。お楽しみに!!

『昭和100年～幸せは、食べて、歩いて、歌う♪』

●開催日 9月5日～9月19日・10月3日の金曜日(全4回)
※時間はいずれも14時～15時30分

●対象 港区内在住・在勤の60歳以上の方

●定員 50名

詳しい内容、申し込み方法などは、Kissポート財団のホームページ、キスポート誌8月号をご覧ください。二次元コードからもご覧いただけます。



前々年度の講座の様子。この日の内容は、「仲間をつくらう」おいでよ ばるーん!」の際のラジオ体操の様子です。皆さん、とても楽しそうです。



今年度の企画運営委員とばるーんの職員。活発な意見交換がされています。

企画運営委員の鈴木さん(左)と進藤さん(右)。お二人とも長く港区にお住まいで、「地域のために、何か役に立つことがしたい」というお気持ちで企画運営委員に立候補したとのこと。自分たちが提案したことを、ばるーんの方がうまくまとめて、実現してくれるのが、とても嬉しいし、意味のあることだと感じられています。



INFORMATION

港区立生涯学習センター(ばるーん)

〒105-0004 港区新橋3-16-3

TEL 03-3431-1606 MAIL baloon@kissport.or.jp

<https://www.kissport.or.jp/sisetu/shogaigakusyu/guide/>



取材・文：千葉 みな子

芝の家・ちゃぶ台日誌 夏編

芝の家ってどんなところ?

4月になって新しい生活が始まり、芝の家でも、今までどおりだけれど、新しさも加わって楽しい毎日が過ぎていきます。今回は改めて、芝の家のご紹介を少ししたいと思います。

どなたでも自由に入出入りできます。たまたま一緒になった方向士でおしゃべりに花を咲かせたり、一緒に遊んだり。お一人で静かに過ごしていく方もいらっしゃいます。



お部屋の中では駄菓子も売っており、喫茶コーナーもあるので、のんびり過ごしていただけます。ご近所にお勤めの方がお昼休みを過ごされたりもしています。



窓の外には縁側があり、毎日いろいろな方がそれぞれの過ごし方をされています。窓を挟んで室内の方とおしゃべりも。



ご紹介できていないこともたくさん。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

INFORMATION

芝の家 芝3-26-8 TEL 03-3453-0474

〈開室日時〉火～金 11:00～16:00

土* 12:00～17:00

※芝のはらっぱ活動日を除く

〈休室日〉 日・月・祝

<http://www.shibanoie.net>

開室時間は変更が生じる場合もあります。最新の情報はホームページや掲示板をご覧ください。

文：芝の家・芝地区総合支所協働推進課

芝の家は、芝地区の地域事業「地域をつなぐ」交流の場づくりプロジェクト」の拠点。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で始まり、事務局スタッフとボランティアスタッフが日々の場を運営しています。姉妹拠点「ご近所ラボ新橋」(港区新橋6-4-2)と合わせてお気軽にお立ち寄りください。

どなたでも自由に入出入りできる「まちの交流拠点」芝の家。日々、近所の方から遠方の方まで、年代も0歳～学生～シニア世代の方まで、多種多様な方が立ち寄ります。駄菓子の販売もあります。おもちゃで遊んだり、紙や布でものづくりをする方、宿題をしたり読書をする方、思い思いの過ごし方をしながら、ゆるやかな交流が生まれています。



「ちゃぶ台日誌」は、芝の家ホームページにて日々の様子やイベントのお知らせを投稿するブログのタイトル。ホームページも合わせてご覧ください。

赤ちゃん専用のものではないのですが、お湯のご用意があり、電子レンジも使っていただけます。オムツ替えもできますので、小さなお子さんも一緒に過ごすことができます。

いろいろな世代の方との交流も自然に生まれます。





どこもすてきな場所です。
ぜひ訪ねてみてね!



しーばん

芝地区に住んで3年目。
まち歩きが趣味



ばっしー

芝地区にあるカフェの2代目店主。歴史オタクでもある

芝地区
MAP

1～20
旧町名由来板の
設置場所



芝地区総合支所 公式SNS



X (旧Twitter)
@shiba_minato

Instagram
@minato shiba official

- ① 八百新 → P1、P2
- ② とらサロン → P4
- ③ 生涯学習センター(ばるーん) → P7
- ④ 芝の家 → P7
- ⑤ 竹芝埠頭 → P5
- ⑥ 綱坂 → P8
- ⑦ 安全寺坂 → P8
- ⑧ 蛇坂 → P8

40

みんなと結ぶ「へいわ」～港区平和都市宣言40周年～

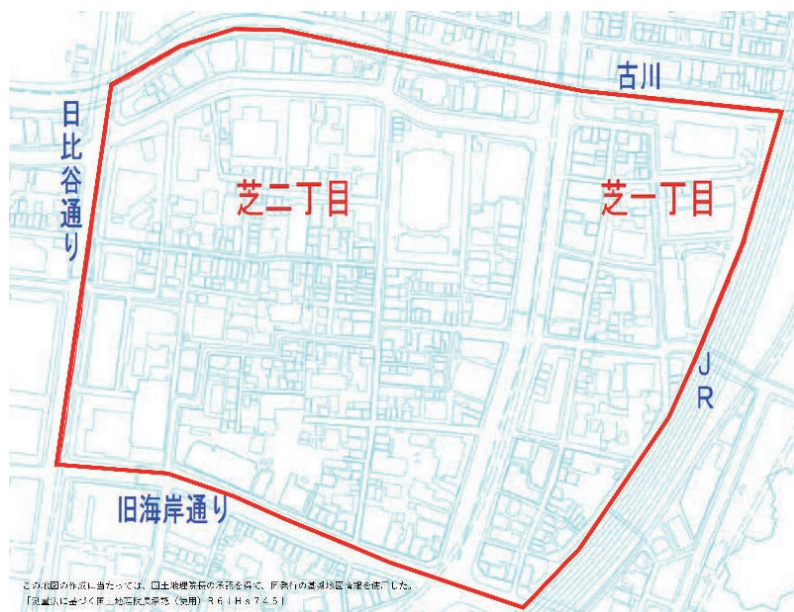
港区芝地区総合支所協働推進課
〒105-8511 港区芝公園1-5-25(港区役所2階)
TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180
<https://www.city.minato.tokyo.jp>

[区ホームページ](#)

- 編集委員……伊藤早苗／菊池弓可／桑原庸嘉子／中原早苗／千葉みな子／早川由紀／逸見チエコ／森明(敬称略)
- 配布場所……芝地区総合支所内の地域(芝・海岸一丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田一～三丁目、浜松町、芝大目、芝公園、虎ノ門、愛宕)の方にをお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています。

法務局地図作成事業のお知らせ

東京法務局では、以下の作業実施地区において、公共基準点に基づく精度の高い地図(不動産登記法第14条第1項に定める地図)を作成します。地区内の土地の所有者様には、土地の境界確認の立会いなどに、ご理解とご協力をお願いいたします。



この地図の作成に当たっては、国土整理局長の承認を得て、同発行の基礎地図複製を使用した。

作業実施地区 芝一丁目、芝二丁目

作業期間 令和7年7月から令和9年3月まで

詳細については、東京法務局ホームページをご覧ください。<https://houmukyoku.moj.go.jp/tokyo/>

問合せ先 東京法務局不動産登記部門港現地事務所 ☎03-3560-7050

各支所では、地域情報誌(情報紙)を定期的に発行しています。

支所内各戸配布のほか、港区立図書館（高輪図書館分室を除く）・各いきいきプラザで閲覧可能です。

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」
- 高輪地区総合支所「みなとっぶ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあっぶ」

区役所のサービスや施設・催しの案内
みなとコール
TEL 03-5472-3710
 (年中無休 8:00~20:00)

買い物
するなら
地元の
商店街で

**Going shopping?
Visit our
shopping
streets.**